

## 第4章 歴史文化保存活用区域の設定と取組方向

### 第1節 歴史文化保存活用区域の設定

歴史文化保存活用区域は、関連文化財群や個々の文化財を核とし、それらと一体となって価値をなす周辺の環境を含めて、文化的な空間を創出するための計画区域として設定するものである。

津和野町は山間に位置し、個々の集落が単独で周辺環境とあいまって特徴ある文化的環境を形成しており、それぞれが街道や河川などを通じて相互に密接に関連しあっている。保存活用区域として設定するためには、核となる指定文化財（今後その価値を明らかにし、指定すべきものも含む）や、関連文化財の一部を含み、特長ある歴史文化の継承と文化財の保護・活用が図られることが必要となってくる。

こうしたことを踏まえ、津和野町においては、次のような基本的な考え方のもとに、歴史文化保存活用区域を設定する。

#### <歴史文化保存活用区域の設定の基本的な考え方>

- ①コンセプトに基づいていること（一貫性）
- ②文化財が相対的に集積していること（存在性）⇒指定文化財（国・県・町指定：今後指定を目指すものも含む）または関連文化財群の一部が含まれていること
- ③対象区域が津和野の歴史を語る上で地域特有の歴史文化を有し、指定文化財や関連文化財群と密接に関連して、一体として保護の対象となるべき文化財が多数存在すること（関連性）
- ④周辺環境を含め文化財を核とした文化的な環境づくりが可能であること（発展性）

表1-4-1 歴史文化保存活用区域の設定の基本的な考え方の意図すること

基本的な考え方	「基本的な考え方」と「一体となって価値をなす周辺環境」との関係
①コンセプトとその背景に基づいていること（一貫性）	○設定区域はコンセプト（山・野・街）と密接に関わり、歴史的背景を有しているもの。 ○文化財調査及びコンセプト等に基づいて設定した視点を基本とし、区域（広がり・周辺環境）が明確となるもの。
②文化財が相対的に集積していること（存在性）	○指定文化財が存在するか、または関連文化財群の一部を含み、それらが地域（歴史文化保存活用区域）の特性を表わすランドマーク（目印、象徴）となっていること。 ○核となる文化財または関連文化財群と近隣接する文化財が多数存在し、文化財の存在（集積、密度）から区域が設定できること。
③地域特有の歴史文化を有し、指定文化財や関連文化財群と密接に関連して、一体として保護の対象となるべき文化財が多数存在すること（関連性）	○核となる指定文化財、または今後指定を目指す文化財と密接に関連し、地域の特性を表す構成要素が多数存在するものであること。 ○その中には今後調査を進め、文化財指定を目指すべき文化財を有すること。
④周辺環境を含め文化財を核とした文化的な環境づくりが可能と考えられること（発展性）	○設定した区域において、地域の特性を表す個々の指定文化財やその他文化財、関連文化財群が、将来にわたって一体的・持続的に、整備を伴いながら保存・活用していくことができ、文化的な環境づくりにつながるものであること。

表1-4-2 歴史文化保存活用区域の設定（1／3）

領域（広がり）の 視点（切り口）	区 域 【名称】	意義・役割	主な文化財 ★：核となるもの（指定・登録） ☆：指定等を目指すもの
<p>○津和野城跡と旧城下町及びその周辺の一体的な区域の検討</p> <p>○路地や水路など、暮らしの空間文化を通じた区域の検討</p> <p>○城下町文化の視点から意義・役割や文化財の検討</p>	<p>●津和野城跡と旧城下町及びその周辺</p> <p>●小京都文化を取り上げる区域 【津和野城、城下町遺跡とその街並み】</p>	<p>全国に数例しかない近世山城である津和野城跡、山麓の居館跡や櫓、城下町の面影を伝える街並み、そして関連史跡群を中心に、周辺環境を含めて一体的に保存・活用していく。</p> <p>また、小京都文化が色濃く残る区域において、その継承と活用を図る。</p> <p>※歴史まちづくり法（重点区域）の活用を意図</p>	<p>★津和野城跡</p> <p>★藩校養老館</p> <p>★多胡家表門</p> <p>★鷲原八幡宮</p> <p>★永明寺</p> <p>★弥栄神社（鷲舞）</p> <p>★津和野町役場、郷土館</p> <p>★津和野カトリック教会</p> <p>★津和野踊り</p> <p>★流鏑馬神事</p> <p>★山陰道（野坂峠越）</p> <p>★亀井氏庭園</p> <p>☆JR山口線（SL運行）</p> <p>☆高崎亀井家跡</p> <p>☆商家</p> <p>☆乙女峠と乙女峠まつり</p> <p>・水路（取り水口）と水文化</p> <p>・煎茶文化</p> <p>・輪くぐり神事（着物文化）</p> <p>・庭の文化</p> <p>・石州和紙の文化</p> <p>・石見瓦と建築様式</p> <p>・和菓子文化</p> <p>・伝統的食文化</p> <p>・大蔭遺跡（縄文）</p> <p>・高田遺跡（縄文～中世）</p> <p>・喜時雨遺跡（中世）</p>
<p>○旧堀氏庭園を中心とした区域の検討</p>	<p>●旧堀氏庭園とその周辺 【旧堀氏庭園と関連遺産】</p>	<p>津和野の経済的基盤と産業文化を今に伝える旧堀氏庭園と関連遺産を、周辺環境を含めて一体的に保存・活用していく。</p> <p>※歴史まちづくり法（重点区域）の活用を意図</p>	<p>★旧堀氏庭園（主屋、枯山水庭園、楽山荘、和楽園、畑迫病院、畑ヶ迫銀銅山等）</p> <p>☆墓所</p> <p>☆旧川園</p> <p>・顕彰碑</p> <p>・城ノ腰、外輪、出丸</p> <p>・西光寺</p> <p>・ホタル など</p>
<p>○笹ヶ谷銅山を中心とした区域の検討</p>	<p>●笹ヶ谷銅山一帯 【天領の繁栄と歴史を伝える鉱山遺跡】</p>	<p>中世から採掘され、江戸時代には天領として、地域経済や幕府の財政を支えた鉱山や関連遺構などを、一体的に保存・活用していく。</p>	<p>☆笹ヶ谷銅山跡（坑道、製錬所跡）</p> <p>☆中木屋城跡</p> <p>など</p>
<p>○津和野における築城と思想の始まりを知ることのできる区域の検討</p>	<p>●木部の集落を中心とした区域 【吉見氏の入部と津和野の思想の発祥の地】</p>	<p>吉見氏が津和野に入った最初の拠点であり、その関連遺跡群や津和野における神道の発祥の地である地域を、一体的に保存・活用していく。</p>	<p>★岡熊臣旧宅</p> <p>★木藪遺跡（吉見氏居館跡及び関連遺跡群）</p> <p>☆福羽美静生誕地</p> <p>☆御嶽城跡、徳永城跡</p> <p>☆富長八幡宮</p> <p>・銅山の馬車道</p> <p>・塩の道 など</p>

表1-4-2 歴史文化保存活用区域の設定 (2/3)

領域 (広がり) の視点 (切り口)	区域【名称】	意義・役割	主な文化財 ★:核となるもの(指定・登録) ☆:指定等を目指すもの
○青野山と一体となった文化的景観による区域の検討 ○棚田を中心とした文化的景観と暮らしの文化を通じた区域の検討	●麓耕・直地の棚田と集落【青野山周辺の農村景観】	青野山の溶岩の上に形づくられた棚田や石州瓦の集落、暮らしの文化や自然、そして青野山を借景とする特徴的な景観を、一体的に保存・活用していく。	☆棚田景観と集落 (麓耕・直地地区:赤瓦、農村集落) ・津和野川 ・清水(湧水) ・麓耕村五神社 ・地倉沼(モリアオガエル) ・地倉権現祭 ・風穴(蚕養蚕) ・噴火跡(麓耕崩れ)
○青野山と一体となった文化的景観による区域の検討 ○田園と暮らしの文化を通じた区域の検討	●笹山の田園と集落【青野山周辺の石見瓦の集落景観】	青野山の麓に形成された田園と石州瓦の集落、暮らしの文化や自然、そして青野山と一体となった特徴的な景観を、保存・活用していく。	☆田園景観と集落 (笹山地区:赤瓦、農村集落) ・廿日市街道(参勤交代) ・風穴(養蚕) ・日参様 ・笹山水源地(湧水) ・南谷発電所跡 など
○青野山を中心に一体の区域として捉えることも検討	【青野山一帯の自然と農と暮らしの文化】	上記の2つの区域と青野山を、一体的に保存・活用していく。	☆青野山 ・山王権現 など



青野山と麓耕の集落と津和野川



青野山と笹山の集落

表1-4-2 歴史文化保存活用区域の設定 (3/3)

領域（広がり）の視点（切り口）	区域【名称】	意義・役割	主な文化財 ★：核となるもの(指定・登録) ☆：指定等を目指すもの
○高津川や源流域(横道川)の自然と暮らしに関わる文化圏の検討	●豊かな森林と清流が息づき、平家伝説の伝わる左鐙の集落やたたら場跡を中心とした区域 【森と清流と平家伝説の文化圏】	豊かな自然とともに暮らしてきた人々の足跡と文化を、森や清流や伝説などとなった圏域として保存・活用していく。	★瀧谷たたら跡 ★下森酒造場 ★左鐙八幡宮社叢 ☆たたら場 ・水力発電所跡 ・茶屋跡 ・神楽 ・ブナの原生林 ・ホタル など
○日原の街並み等の再評価と一体的な区域の検討	●日原及び枕瀬の街並みを中心とした区域 【天領と川が育んだ街並み景観】	かつて鉾山で賑わい、天領であった地域の歴史文化、そして高津川と緑にとけ込む石州瓦の街並みを、周辺環境を含めて一体的に保存・活用していく。	★藤井家住宅 ★枕瀬代官所跡 ☆水津家住宅ほか ☆歴史民俗資料館（資料等） ・赤瓦の街並み（日原天文台からの景観など） ☆高津川と周辺の文化的景観 ☆日原銅山跡 ・奴道中 など
○天然記念物やそれを取り巻く文化的景観による区域の検討	●大元神社跡のクスノキを中心とした区域 【県下の大木を中心とした農村景観】	大元神社跡のクスノキをシンボルとした農村景観を守るとともに、それと一体的に存在する文化財を保存・活用していく。	★大元神社跡の樟（クスノキ） ★三渡八幡宮（本殿、社叢） ★下瀬山城跡 ★社地脇古墳跡 ・集落（田園） ・歯の地藏様、耳の地藏様 ・薬師堂（目の神様） ・カブトエビ など
○街道と舟運の結節点における歴史的な区域の検討	●青原・柳村の集落を中心とした区域 【街道と舟運が交わる交易・交流遺産】	山陰道と高津川の舟運の結節点として、交易・交流で栄えた歴史文化と集落を、周辺環境を含めて一体的に保存・活用していく。	★青原八幡宮（社叢） ★青原代官所跡 ★山陰道（徳城峠越） ・渡し跡 ★柳神楽と神楽面 ☆網代 ☆原田家（たたら）墓所 ☆奴道中 ・尾中山城跡、大嶽城跡 など
○河川（高津川）と景観・生活文化をつなぐ区域の検討	●高津川とその周辺 【高津川の恵みと文化的景観】	日本一の清流である高津川とその恵みである生業や暮らしの文化、そして景観を、川を軸として一体的に保存・活用していく。また、上流の吉賀町、下流の益田市と連携した取組を進める。	☆高津川の文化的景観（安蔵寺山と大ミズナラ、雄滝、雌滝、たたら跡、棚田、ワサビ田、漁（アユ、カニ、ウナギ）、渓流魚（ゴギ、ヤマメ）平家伝説、巖島神社、水力発電所跡など）



高津川



横道川

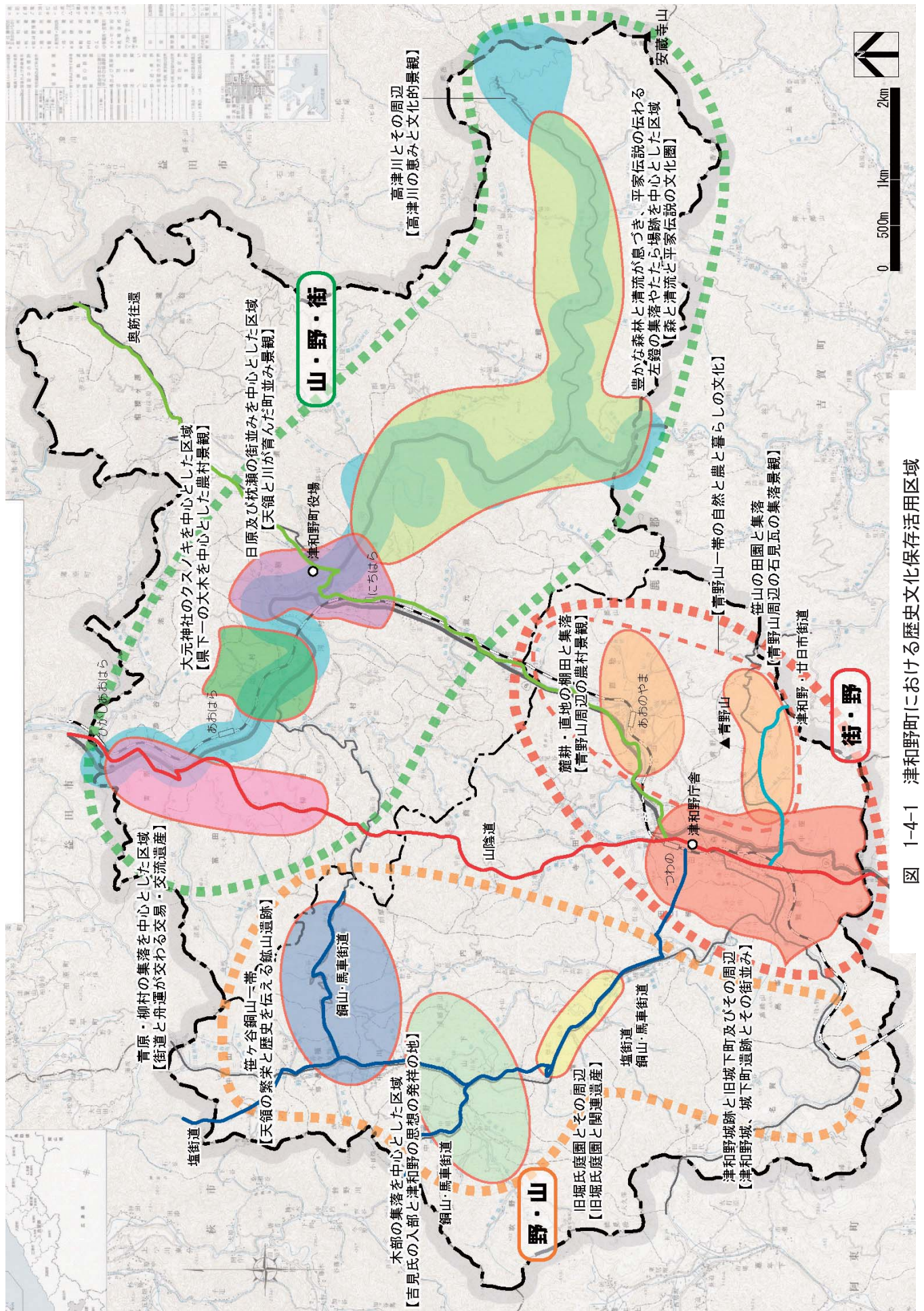


図 1-4-1 津和野町における歴史文化保存活用区域

## 第2節 歴史文化保存活用区域における取組方向

歴史文化保存活用区域の形成（区域づくり）について、津和野町における文化財の保存・活用の基本理念などを踏まえながら、取組方向を明らかにする。

表1-4-3 歴史文化保存活用区域における主な取組方向～文化財の保存・活用～（1／2）

歴史文化保存活用区域 【名称】	文化財の保存・活用の取組方向
津和野城跡と旧城下町及びその周辺 【津和野城、城下町遺跡とその街並み】	<ul style="list-style-type: none"> <li>■津和野城跡の保存・活用</li> <li>■藩御殿・門の復元・活用</li> <li>■藩校養老館の修理・復元と活用</li> <li>■森鷗外旧宅と森鷗外記念館の活用</li> <li>■西周旧居の活用と西周記念館構想の検討</li> <li>■城下町史跡群の保存・活用</li> <li>■城下町遺跡（地下遺構）の保存・活用</li> <li>■山陰道の保存・整備・活用</li> <li>■津和野・廿日市街道、奥筋往還の保存・整備・活用</li> <li>■石見瓦と歴史的建造物と街並みの保存・活用               <ul style="list-style-type: none"> <li>・歴史的建造物と街並みの保存・活用</li> <li>・（重要）伝統的建造物群保存地区の指定に向けた取組</li> </ul> </li> <li>■町家の庭園と煎茶文化の保存・継承・活用</li> <li>■城下町の民俗文化財の継承・活用               <ul style="list-style-type: none"> <li>・鷺舞</li> <li>・津和野踊</li> <li>・乙女峠祭</li> <li>・その他民俗芸能・行事</li> </ul> </li> <li>■棚田の保存・活用（中座地区など）</li> <li>■旧城下町周辺地区における遺跡（縄文～中世）の保存・活用               <ul style="list-style-type: none"> <li>・縄文の里（仮称）づくりの検討（高田、大蔭地区）</li> <li>・石見瓦の窯跡の調査と復元の検討</li> </ul> </li> <li>■景観保全と新津和野百景づくり</li> <li>■その他、関連文化財群【近世城下町の史跡と文化】における取組の展開               <ul style="list-style-type: none"> <li>・歴史まちづくり法の活用に向けた取組（歴史的風致維持向上計画の策定）</li> <li>・旧城下町及びその周辺地区における景観形成 など</li> </ul> </li> </ul>
旧堀氏庭園とその周辺 【旧堀氏庭園と関連遺産】	<ul style="list-style-type: none"> <li>■旧堀氏庭園の保存・整備・活用</li> <li>■旧畑迫病院の保存・整備・活用</li> <li>■旧川園の保存・整備・活用</li> <li>■畑迫銀銅山跡等の保存・活用</li> <li>■清流とホタルの里づくり</li> <li>■銅山・馬車街道の保存・活用</li> <li>■民俗芸能の調査と活動支援</li> <li>■景観保全と新津和野百景づくり</li> <li>■歴史まちづくり法の活用（歴史的風致維持向上計画の策定）を検討</li> </ul>
笹ヶ谷銅山一帯 【天領の繁栄と歴史を伝える鉱山遺跡】	<ul style="list-style-type: none"> <li>■銅山跡及び関連遺構などの調査</li> <li>■鉱山施設跡等の整備（安全対策等）</li> <li>■アクセス及び昔の道の確保</li> <li>■銅山資料室等の検討</li> <li>■堀氏関係の古文書等の調査</li> <li>■鉱山に関わる広域的な連携（石見銀山遺跡など）</li> <li>■笹ヶ谷銅山に関する情報提供及び学習・体験機会の確保</li> <li>■景観保全と新津和野百景づくり</li> </ul>
木部の集落を中心とした区域 【吉見氏の入部と津和野の思想の発祥の地】	<ul style="list-style-type: none"> <li>■吉見氏関連遺跡の保存・活用</li> <li>■中世山城跡の保存・活用</li> <li>■国学者の旧宅・生誕地の保存・活用</li> <li>■銅山・馬車街道、塩街道の保存・活用</li> <li>■中曾野の地芝居等地域芸能の継承・活用</li> <li>■景観保全と新津和野百景づくり</li> </ul>

表1-4-3 歴史文化保存活用区域における主な取組方向～文化財の保存・活用～（2／2）

歴史文化保存活用区域 【名称】	文化財の保存・活用の取組方向
麓耕・直地の棚田と集落 【青野山周辺の農村景観】	<ul style="list-style-type: none"> <li>■棚田の保存・活用</li> <li>■石見瓦の家並みの保存・継承</li> <li>■地倉沼一帯の自然環境の保全・活用</li> <li>■民俗芸能の継承・活用</li> </ul>
笹山の田園と集落 【青野山周辺の石見瓦の集落景観】	<ul style="list-style-type: none"> <li>■石見瓦の家並みの保存・継承</li> <li>■津和野・廿日市街道の保存・整備・活用</li> <li>■水源地の保存・継承</li> <li>■風穴の調査と保存・活用</li> <li>■神事、民俗芸能の保存・継承</li> </ul>
【青野山一帯の自然と農と暮らしの文化】	<ul style="list-style-type: none"> <li>■田園風景の保存・継承</li> <li>■青野山の自然環境の保全</li> <li>■湧水・名水の水の環境の保全</li> <li>■青野山の信仰の継承</li> <li>■景観保全と新津和野百景づくり</li> <li>■歴史まちづくり法の活用（歴史的風致維持向上計画の策定）を検討</li> </ul>
豊かな森林と清流が息づき、平家伝説の伝わる左鐙の集落やたたら場跡を中心とした区域 【森と清流と平家伝説の文化圏】	<ul style="list-style-type: none"> <li>■たたら場跡の調査・研究とその成果等の活用</li> <li>■たたら場跡の保存・整備・活用</li> <li>■森林の保全・活用</li> <li>■左鐙八幡宮社叢の保存・活用</li> <li>■歴史的建造物の保存・活用</li> <li>■水力発電所跡の保存・活用</li> <li>■平家伝説に関わる地名等の継承</li> <li>■民俗芸能の継承・活用</li> </ul>
日原及び枕瀬の街並みを中心とした区域 【天領と川が育んだ街並み景観】	<ul style="list-style-type: none"> <li>■歴史的建造物の調査と保存・活用</li> <li>■天領関係の遺跡等の調査と保存・活用（銅山跡、代官所跡など）</li> <li>■川と一体となった石見瓦の家並み（景観）の保存・活用</li> <li>■石見神楽、奴道中など民俗芸能の継承・活用</li> <li>■歴史民俗資料館の充実・活用</li> </ul>
大元神社のクスノキを中心とした区域 【県下一の大きな木を中心とした農村景観】	<ul style="list-style-type: none"> <li>■大元神社の樟（クスノキ）の保存・活用</li> <li>■田園景観の保全・活用</li> <li>■三渡八幡宮（本殿、社叢）等の保存・活用・ネットワーク化</li> <li>■下瀬山城跡の保存・活用</li> <li>■社地脇古墳跡の調査と保存・活用</li> <li>■天然記念物の保存・継承（カブトエビなど）</li> <li>■民俗芸能の継承・活用</li> </ul>
青原・柳村の集落を中心とした区域 【街道と舟運が交わる交易・交流遺産】	<ul style="list-style-type: none"> <li>■山陰道（徳峠峠越）の保存・活用</li> <li>■原田家に関わる文化財の調査と保存・活用</li> <li>■青原八幡宮社叢の保存・活用</li> <li>■柳神楽、奴行列、網代など民俗芸能の継承・活用</li> </ul>
高津川とその周辺 【高津川の恵みと文化的景観】	<ul style="list-style-type: none"> <li>■川に関わる生業や生活文化・食文化の継承・活用</li> <li>■舟運に関わる文化財の調査と保存・活用</li> <li>■農村景観（棚田、ワサビ田）の保全・活用</li> <li>■民俗芸能の継承・活用</li> <li>■高津川の文化的景観について近隣市町との連携</li> <li>■景観保全と新津和野百景づくり</li> </ul>
共通する事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>■住民参加による継続的な文化財の調査</li> <li>■住民参加による文化財の保存・活用の体制と人づくり</li> <li>■住民参加による文化財の維持管理と活用</li> <li>■サイン計画の策定（現状把握を含む）とサインのネットワーク的整備</li> <li>■情報の提供と受発信の充実：</li> <li>■公開・活用施設等のネットワークづくり</li> <li>■テーマ等による周辺地域（自治体）との連携や広域的なネットワークづくり</li> <li>■文化財を生かした体験・学習機会の確保と催しなどの開催</li> </ul>